

第 13 回中央区スポーツ協会会長杯 学童野球交流大会特別規則及び注意事項

1 大会特別規則

- (1) トーナメント戦とし、3 位決定戦は行わない。
- (2) 各試合とも 6 回戦とし、1 時間 30 分を過ぎて新しいイニングに入らない。
 - (ア) 決勝戦も同様とする。
 - (イ) 後攻チームが勝っている状況で制限時間に達した場合は、その時の打者の打撃中にその旨を両チームに通告し、この打者が打撃を完了して試合終了とする。
 - (ウ) 暗黒・降雨などで試合続行が不可能な場合は、次のとおりとする。
 - (a) 4 回終了または、試合開始から 1 時間 30 分を経過した場合は、試合成立とする。但し、同点の場合は決勝のみ再試合とし、それ以外の試合は抽選により勝敗を決する。
 - (b) 4 回に満たず試合開始から 1 時間 30 分を経過していない場合は、競技者必携の特別継続試合の規定は適用せず、すべて再試合とする。
- (3) 6 回を終了または制限時間が過ぎても勝敗が決定しない場合、延長戦は行わずタイブレーク方式とする。
タイブレークは 1 イニングを行い、勝敗が決しない場合は抽選とする。
※抽選方法は競技者必携 246 及び 247 ページによる。指名打者は抽選に加わらない。
- (4) 4 回以降 7 点差が生じた場合はコールドゲームとする。ただし、それ以前の大差の場合、両監督による協議のうえ試合を打ち切ることがある。
- (5) 変化球については、競技者必携 45 ページによる。
- (6) 投手の投球数制限について
 - ① 肘・肩の障害予防のため、1 人の投手が 1 日に投球できるのは 70 球以内とする。
 - ② 70 球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで、又は打撃を完了する前に攻守交代になるまで投球できる。投球制限には、タイブレークの投球数を含む。
 - ③ 1 度降板した投手は、70 球に達するまでその試合やその日の試合に再登板できる。
 - ④ 投手の投球数には牽制球や送球とみなされるものは数えず、実際に打者へ投球した球数とする。
 - ⑤ 4 年生以下は 1 日 60 球以内とする。
 - ⑥ 同一日に本大会と別の試合を実施するチームは、球数を合算するため大会本部へ申告しなければならない。

2 用具について

- (1) バット、ヘルメット、捕手の防具は競技者必携のとおりとする。
- (2) グラブの規定は、競技者必携のとおりとする。

3 安全対策

- (1) 素振り用リングは抜ける危険があるので持ち込みを禁止する。(グラウンドに持ち込まない)
- (2) 捕手は危険防止のため、必ずマスク（スロートガード付）・プロテクター・レガーズ・ヘルメット・ファウルカップを着用すること。(控えの捕手とブルペン捕手も同様とする)
- (3) 打者、次打者、走者及びベースコーチとも両側にイヤラップの付いたヘルメットを着用すること。

- (4) ボールパーソン、バットパーソンもヘルメットを着用すること。
- (5) 試合前のノックの補助員（ノッカーにボールを渡す者）は安全のため必ずヘルメットを着用すること。
- (6) 熱中症予防のため主審の判断で給水タイムをとる場合がある。（給水タイムは試合時間に含まない）

4 塁審

- (1) 帯同審判制とし、必ず各チームより2名出すこと。
- (2) 第1試合の帯同審判員は試合開始予定時刻の30分前、第2試合以降は、前の試合が終了後、直ちに会場本部へ集合する。
 - <1日2試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。
 - <1日3試合> 第1試合＝第3試合から。 第2試合＝第1試合から。
第3試合＝第2試合から。
 - <1日4試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。
第3試合＝第4試合から。 第4試合＝第3試合から。

※ 決勝は、連盟審判員の3審制で行う。

※ 各試合の帯同審判員4名のうち1名は、BS0を担当する（決勝を除く）

5 試合開始時間

1試合目 8：30 2試合目 10：20 3試合目 12：10
4試合目 14：00

※ ただし、同一チームの試合が連続する場合は、次の試合を30～60分程度遅らせる。

※ 第2試合以降のチームは開始時刻の60分前までに会場に集合し大会本部へ到着を届け出ること。

※ 打順表の提出は、第一試合のチームは試合開始予定時刻の30分前までに提出する。
なお、第二試合以降のチームは前の試合の3回終了時まで提出し、攻守を決定する。
提出枚数は4部とし、控え選手もフルネームで記入する。その際、各チーム ニューボールを2球ずつ提出する。大会使用球はナガセケンコーJ号ボールとする。

※ 打順表提出の際に、監督（またはコーチ）は指導者資格証を提示すること。
打順表と登録名簿の照合後、会場責任者と審判員の立会いのもと速やかに攻守を決定する。

6 補助員について

- (1) ボールパーソン、得点係等を含めて補助員（20歳以上）を各チーム4名選出すること。
- (2) 第一試合のチームは開始予定時刻の30分前までに、第二試合以降のチームは前の試合の終了後直ちに会場本部に集合して打ち合わせをしてください。

7 その他の注意事項

- (1) ベンチ内での携帯マイクの使用は禁止する。メガホンは監督のみ使用を認める。
- (2) 礼儀に反するような行為はつつしむこと。（言動、鳴り物、携帯マイク等）
 - ※競技者必携8ページ記載の「マナーを守った節度ある応援について」を遵守すること。
- (3) 抗議権を有する者は、監督か当該プレイヤーのいずれか1名。
- (4) ベンチは、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。ただし同一チームが2試合続く場合、ベンチ入れ替えは行わない。

(5) シートノックは行わない。

試合前のアップ時にベンチ前でサイドノックを行うことができる。サイドノックはベンチよりホーム方向で行ってはならない。また、サイドノックは内野ノックのみとし、外野ノックは、外野エリアで行うことができる。

(6) 監督及び主将等は次の場合はウインドブレーカー等を脱いでユニフォーム着用とする。

- ①監督が選手の交代を告げるとき。
- ②監督が監督のタイム（守備、攻撃）を行使しグラウンド内へ入るとき。
- ③監督が抗議権を行使するとき。
- ④監督又はコーチが投手の準備投球を受けるとき。
- ⑤監督及び主将が攻守のトスを行い、打順表を交換するとき。

※監督のタイム及び攻撃のタイムは監督のみとし、コーチやその他の者が代理することはできない。また、選手が伝令として伝えることもできない。

(7) 試合前のアップ時は、フリーバッティング、ハーフバッティング、ティーバッティングを禁止する。但し、軽く飛ばない樹脂製のボールや羽等の使用を新潟市予選会は認める。

(8) 各イニングの先頭打者とイニングの途中で投手が交代した後の先頭打者はその投手の準備投球が終了するまでネクストバッタースボックス内で待機し、球審の合図でバッタースボックスへ向かうこと。

(9) 攻守交代時に自チームの練習をベンチ前で見守ることができるが、プレイがかかる前に速やかにベンチへ入ること。ネクストバッタースボックス内の選手以外の者が投手の準備投球に合わせて素振りをするのを禁止する。

(10) 投手の 12 秒及び 20 秒ルール（ピッチクロック）は、審判員が注意指導を行う。ただし、決勝戦はペナルティー等の規則を適用する。

※タイムを宣告してボールデッドとする。「タイム」の宣告にもかかわらず投手が投球した以降のプレイは無効とする。

(11) 指名打者ルールを使用することができる。但し、二刀流選手を採用しない。（大谷ルール）

(12) 第 1 試合のアップについては、試合開始時刻の 1 時間前にグラウンドを利用できる。但し、グラウンド整備により時間が前後する場合がある。

(13) 4 年生以下の投手のバッテリー間及び塁間の規定は採用しない。

(14) 次のイニングに引き続き投げる投手は、ベンチ正面でのキャッチボールを禁止するが、ベンチ外野側角からポール方向のファウルテリトリで軽いキャッチボールは認める。ブルペンの使用は従来通り。ストレッチ、ランニング等は攻守交代の間のみできる。

8 スポーツマンシップの徹底

野球にヤジは必要ありません。楽しい野球をするために「尊重・勇気・覚悟」をもって取り組みましょう。

9 大会の中止及び順延について

(1) 試合の有無については、試合前日の午後 4 時までに決定し、午後 4 時以降に各チームがテレホンサービスで確認してください。 テレホンサービス ☎025-245-4189

※早起き野球と兼用のテレホンサービスのため、最後まで音声を確認してください。

(2) 順延の場合は、日程が決まり次第、連絡責任者に連絡します。

(3) 予備日までに準決勝・決勝が実施できなかった場合は、順位を決定しない。